

会 議 録

会議の名称	第2回小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会					
事務局	生涯学習部生涯学習課					
開催日時	令和6年7月26日(金) 18時30分から20時30分まで					
開催場所	小金井市民会館 萌え木ホール3階A会議室					
出席者	委員長	金子 嘉宏	委員			
	副会長	塩原 真一	委員			
	委員	瀧島 啓司	委員	倉脇 雪夜	委員	
		天本 晋平	委員	大林 基	委員	
		板垣 智徳	委員	梶野 政志	委員	
		島田 剛	委員	鈴木 哲也	委員	
		瀬沼 将己	委員	砂子 啓子	委員	
		中村 彰宏	委員	依田 隆夫	委員	
		下島 陸矢	委員	川原 美紀	委員	
欠席者						
事務局	生涯学習部長	梅原 啓太郎				
	生涯学習課長	三浦 真				
	スポーツ振興係長	越 元宏				
	スポーツ振興係主任	津田 理恵				
	スポーツ振興係主事	矢島 幸子				
	指導室長	平田 勇治				
	指導室統括指導主事	田村 忍				
受託者	リーフラス株式会社	中野 泰博	戸所 徳益			
		西梶 博己	富永 寧々			
	ファシリテーター	田原 真人				
傍聴の可否	可 一部不可 不可					
傍聴者数	3					
傍聴不可等の理由等	-					
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校部活動の地域連携・地域移行の概要など、小金井市における部活動の地域連携について 2 小金井市の学校部活動のあり方について 3 今後の予定について 4 その他 					
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり					
提出資料	別紙のとおり					

ころで受託させていただきました。

御市の方向性がよりよくなるお手伝いをしていけたらなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、私がリーフラスの中での最終的な責任者をしております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

受託者（西梶） 私、リーフラスの西梶と申します。全国の部活動を担当させていただいています。よろしくお願いいたします。

受託者（富永） 私、リーフラスの富永と申します。よろしくお願いいたします。私は唯一、小金井市民として現在も在住し、第二中学校を卒業させていただいております。市民の意見も聞きながら、ご一緒に対応させていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

受託者（戸所） 私、リーフラス株式会社の戸所と申します。事業現場の担当者として、従事してまいりますのでよろしくお願いいたします。

また本日、次第2のワークショップを実施するところで、弊社からファシリテーター田原様を招いております。

田原様から一言よろしくお願いいたします。

受託者（田原） どうも初めまして。国際ファシリテーター協会の田原と申します。Zoom革命!という本を2017年に出版し、11年間マレーシアで暮らして、海外の状況やオンラインの状況などをいろいろ見てきました。

私自身、野球部で甲子園を目指していたのですが、今回はこういうご縁で皆様とお話し、ファシリテーターとして携わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

金子委員長 はい、引き続きよろしくお願いいたします。

続きまして、会議に先立ちまして、配布資料の確認を事務局からお願いいたします。

(配布資料の確認)

金子委員長 それでは、参考資料について、鈴木委員の方から簡単にご説明い

ただけますでしょうか。

鈴木委員 はい。後ほど、お話をさせていただきたいところがあるので、その時にまとめてでもいいでしょうか。

金子委員長 かしこまりました。では、早速議題に入りたいと思います。続きまして、議題1「学校部活動の地域連携・地域移行の概要など、小金井市における部活動の地域連携について」です。

事務局から説明をお願いいたします。

三浦課長 はい、事務局でございます。それでは、リーフラスさんの方で、資料をご用意いただいておりますので、こちら、事例共有というところをお手元にご覧いただきまして、しばらくお待ちください。

受託者（西梶） はい。では、リーフラスの方からお手元の資料を見ながらご確認いただければと思います。

(配布資料の確認)

受託者（西梶） 今まで学校部活動で行われた、いわゆる指導者は学校の先生方が行い、参加者は学校の生徒、施設や用具等は学校使用ができ、学校保険で対応。スポーツ振興センターの災害共済給付が適用されていたという現状。少子化の中で、継続的な体制を作るためには、休日の地域クラブ活動を推奨しているような次第でございます。

実際に休日の地域クラブ活動の1つのモデル図です。市町村と地域の大学や民間事業者、ほかにもスポーツ団体などが連携して地域クラブ活動を行うもの。また総合型スポーツクラブや民間事業者等が図について、直ちにそのような形ができない場合は部活動指導員を地域の方に少しずつ移行する形や合同部活動を行う形が必要ではないか、ということで載せています。地域クラブ活動として行うというものを掲載しております。

全国、北海道から沖縄まで、実践的に実施をされており地域性でかなり差がございます。東京都に関しましては現在、品川区、渋谷区、中野区、板橋区、日野市、狛江市で行われている状況です。

現状、全国北海道から九州まで少しずつ移行が行われており、東京都に関しましては、港区、新宿区、品川区、千代田区、杉並区、世田谷区、渋谷区、台東区、昨年まで狛江市を弊社でお手伝いさせていただいた次第です。

部活動のスキームに関しては、実際に地域を移行しましたら、先生方・学校が担っていたものから離れ、地域クラブ活動で指導者を確保・指導者の研修・学校と連携しながら指導だけでなく、緊急連絡、欠席、怪我の対応等も必要になります。

また、保険の方が適用されませんので、保険の方に関しましては、民間の保険を活用して実施する必要があるということでご説明をさせていただきます。

これは保険の内容なので、ご確認をください。今、スポーツ安全保険や様々な保険が、スポーツ振興センターと同額の死亡3,000万、後遺障害4,000万だとか、そういった保険制度が整いつつある状況でございます。実際に先生方または地域の方々が地域スポーツクラブで指導された時の注意事項でございます。

赤いところ、丸をつけているところですが、実際に雇用をされた場合、民間企業であるだとか、組織だって雇用を基に指導されている方に関しましては、もしその事故怪我があった場合には、企業が責任を負うという形になりますが、学校から切り離された地域スポーツクラブになりますので、そういった手立てを考えなくてはいけないということで、ご説明をさせていただきます。

その他内容につきましては、皆様お時間がある時にご確認ください。実際、東京都内で行われている部活動の地域移行・地域連携の詳細を細かく載せております。リーフラスの方からご説明は以上となります。

金子委員長

はい、ありがとうございました。

続いてになりますが、市内中学校の先生たちから部活動の地域連携における課題について、ご意見を集めたということですので、ご説明をお願いいたします。

田村主事

総括指導主事の田村です。休日の部活動の現状と、瀬沼先生から先生方の声をお話させていただきます。休日の部活動の現状ですが、各学校の状況というよりは、市全体としての状況ということでお話

しさせていただきます。

依田委員 ごめんなさい、資料はありませんか。

田村主事 資料はございません。

依田委員 メモをとるとのことですかね。

田村主事 はい、そのような形でお願いいたします。

では、休日に活動している部活数ですけれども、各校少しばらつきがありますが、7から12部活程度の活動をしていて、平均するとおよそ9部活が休日に活動していることとなります。

内訳としては、活動しているのはほぼ運動部で、文化部は、各校1から4程度の部活となります。どの程度活動しているかと言いますと、休日に活動している運動部は、ほぼ全てが月4回となり、週に1回ほど土日のどちらかで活動している状況でした。

文化部につきましては、吹奏楽部、ウインド・アンサンブル、この辺が月4回実施。美術部や手芸部など名前が上がっていますが、月1回や学期1回と、おおよそ吹奏楽部やウインド・アンサンブルが一生懸命活動している状況でした。

顧問の参加状況についてですが、休日の活動には、ほぼ全ての部活動で顧問が必ず参加しているという状況でした。

部活動指導員についてです。部活動指導ですが、休日の部活動にほぼ毎回参加しているという状況です。参加の際は、顧問と一緒に参加。または、顧問の代わりに参加するというところまで行っていたのですが、完全に指導員に任せているところまでは行けていない状況でした。

私から最後になりますが、地域移行の可能性について聞いてみましたが、学校や先生方によって、ばらつきがあり、現状では困難・条件を整えば可能・可能性を探りたい、というような様々な意見がありました。

このあと、先生方の声として、瀬沼先生からお話をさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

瀬沼委員 緑中の瀬沼です。よろしく申し上げます。小金井市立学校部活動

の地域連携に関する検討委員会ということで、各学校の先生の中で、部活に対する意見を集約したのがあります。

1つずつ全部読んでしまうと時間がかかるため、僕の方で簡単にまとめたものがあるので、そこで紹介していきます。

基本的に、地域部活へ移行をしたいと思っている先生方もかなりの人数がいるよう感じます。

ただ、地域移行したことに関して、どれだけ教員の仕事が軽減されるのか、どのような懸念があるのが、などの大まかな意見になると思います。

次に行きます。部活動に関わる意見についても、一定数回答が出ています。実際、部活動をやりたいという教員もいますので、兼職兼業の保証や手当なり、ルールが明確になっていかないと意味がないのではないかとご意見がありました。また、心配されることということで、各学校によって地域移行に差が出るのではないかと。今までと同様に部活動ができるのか、というのがあったり、費用がプラスで発生するのではないかと、様々な懸念点がありました。

(投影資料の確認)

簡単にまとめたのですが、黒で記載してあるのが、疑問的な意見だと思っています。左上の方から少しずつ話します。

「①教員の負担がどこまで残るのか」というところが結構多かった意見です。部活が地域移行することによって、上の真ん中のところにも書いてあるのですが、家庭連絡や保護者対応など、部活のトラブルを教員が顧問として残ってやる場合、地域移行にしたとしても教員の負担はあまり減らないじゃないか、など意見として出てきました。

また、地域移行した場合、そういったトラブルなども含めて、それが部活指導という枠で対応してもらえるのか、地域移行したことによってその辺のことを理解した方が指導者として来てくれるのか、というような意見がありました。また、1番上の右側ですけど、「②中体連の大会を運営する中で、99パーセント、中体連の連盟で動いているのが教員ですので、地域移行したことで、先生方がこの中体連の機能をやらないことで、今と同じような部活の運営体制が取れるのか、大会が成立するのか。」そういったような疑問の声と

いうものが上がっています。

真ん中の枠、左側になります。「③地域移行をすることで、会場費や指導費などの徴収などが毎月月謝みたいな形でとられるのではないか。」その場合、月謝を理由にやりたい部活ができないとなってしまうと、公教育の中で平等性が保てるのかなどのご意見も出ていました。

真ん中の枠、右側になります。「④指導者の質や人員の確保など、地域差が大きくなるか。」これは、小金井市というよりは、東京都全体、全国を見ての内容ですが、そもそも、地域の人材確保っていうところで、大きな疑問点が残るような意見がありました。下の3つは前向きな意見になりますが、「⑤地域移行されることで、教員の異動に左右されないで、その地域では安定的な指導が期待できるのではないか。」教員の仕事分担が減るという意味では、働き方改革に繋がっていくのではないかと期待感。部活の指導を望む教員に対しては、制度を整えていくことで、部活をやりたい教員は生き甲斐を持ってできる、やりたくない教員は、働き方改革につながるという住み分けがきちんとできるのではないかと、というような期待感があるとアンケートを取りまとめました。ここからは私的な意見になってしまうのですが、意見を見ていく中で私が感じたことは、教員にこの地域移行というものが、なかなか周知されていないことが現状あると思っています。完全に地域移行ができると思っている方もいれば、そもそも無理じゃないかと感じる方もいたり、教員の中でこの地域移行が浸透しきれていないと思っています。なので、こういう会議を行う上で、現場の教員の方々に、「今はこういう状況で、小金井市はこういう風が変わっていくんだよ。」などをもっと発信していかないと、意見アンケートを集約しても、先生方の意見や理解度がバラバラなので、集約してまとめましょうというのは難しいのかなと思っています。

そのため、改めて情報発信といったところは行っていかねばと感じました。

私からは以上です。

金子委員

ありがとうございました。

それでは、最初のリーフラスさんからのご説明を含めて、学校部活動の地域連携を現実的に進めるにあたって、委員の皆様からご意見

をいただきたいというのと、特に、今ありましたように、いろんな課題があると思います。課題をどういう風に解決していくかということが、まず1つ大きなポイントになってくると思います。

後半2つ目の議題に関しては、もう少し大きな話として、部活動をどうしていくかを、話をしていこうと思います。

前半は、現実的に、部活動を地域に移行していくにあたって、こういうような課題があって、それは乗り越えられるものなのか、そもそも難しいので、これであればできるのではないかなど議論が進んでいけばいいんじゃないのかなど思っておりますので、ぜひ皆さんからご意見をいただきたいと思います。

あと、私の方から、リーフラスさんにはぜひ、いろんな部活動の地域移行を経験され、先生方から出てきてるような疑問がしっかりと回答でき、成功事例が全国でたくさん出ているのではないかと思いますので、実際に先生方の負担が減ったのか、どういう形で先生方が今持たれていた疑問点を解消できたかなど、またどこかのタイミングでご説明いただければと思います。

受託者（西梶） はい、ありがとうございます。では、私の方から守秘義務のところで、地名は出せませんが、参考になればと簡単にお話をさせていただきます。

1つ目は、やはり先生方は「部活動の怪我」とか「生徒間同士のトラブル」が1番気にされます。こういったものに関して、我々が対応させていただいているのは、お渡しした資料図で挙げましたように、統括責任者という社員を配置し、連絡・出席確認・トラブルに対して学校との共有を行い、学校生活で行われたトラブルなのか、部活動で発生したものなのか、によって、我々が学校や保護者と連携を行います。

2つ目は、「受益者負担がないか」に関しまして、ある自治体は令和8年から完全移行をさせると提示されています。現段階で、非課税世帯のお子様方に関しては、行政の方で、実際に負担を行う準備で予算編成を行っております。

今後、そこの市町村は全部活動が切り替わりますので、一律で4,000円自己負担をしてもらいます。ただし、4,000円以上かかったものは役所の方で負担。それと非課税世帯の方々に対しては、4,000円分は全て役所の方で負担を行うということで、保護課

の方が動いており、実施をさせていただいているような次第でございます。

3つ目は、「先生方の負担が減っているか」の内容に関してですが、ある市区町村では、88.8%の土日部活動の勤務時間が減ったというデータが出ています。残り11.2%はどうしても心配な先生が出てきてしまっている状況があり、上記データが出ています。

最後に、「指導者の確保の差について」は、教育格差は出てしまうだろうという見解になっています。実際、提示した資料の中に、地域移行の地図がありましたが、地域移行が周辺で始まると、指導者の方の取り合いが実際に起こっています。雑な言い方では、早い者勝ちともいわれてしまうところがございます。

実際に、確保の差については、例えば近隣にお住まいの方がすでにほかの市で指導をお手伝いされている方で、自分の住んでいる市で部活動の指導が始まったとして、異動をしません。

なぜなら、子どもたちを直接指導することで、業務だからではなく、子どもたちのために指導される方が多いため、異動をする方が少ないと考えております。

金子委員長

引き続きいろんな情報をいただきながら、議論をして進めていければと思います。私の方からも、部活動を移行することによって、子どもたちにとってどんなメリットがあったかなど、お話を聞かせていただければと思います。皆さんの方からぜひご意見ければと思います。議事録を残すため、先に皆さん名前を言ってからご発言ください。

依田委員

じゃあ、すみません。依田です。基本的な話ですが、説明いただいた休日活動についてと、アンケート意見の話について、大変重要な意味を含む話だったと思うのですが、これは、すみません、議事録として残るといって、後で見ればそれは確認できるってことですよね。この資料は重要で、全部が全部書いていなくてもいいのですが、ポイントを何か資料として書いていただくと理解しやすいのかなと思いました。

そうっていないのは、なぜなのかなというのが、ちょっと私には理解できなかったのです。メモ書きしましたが、それでも重要なポイントがずれているかもしれないので、チェックできるような形に

なった方がいいのかなと思いました。はい、以上です。

田村主事 そうですね、アンケートを取って集約したっていうところがあって、正式な資料としてまだ作っていないところがあります。ですので、口頭での説明となり申し訳ないですが、生涯学習課の方が中心になって動いていることなので、様々相談しながら、必要な資料については整えてお出しできればと思っています。

依田委員 私が思うに、正式な資料じゃなくて、皆さんが担当されている中で、何がポイントなのかを箇条書きにでもすれば、我々の理解もしやすくなると思います。それがどういう正式な資料としてまだ作っていないところかはわかりませんが、我々が感じている会議は、そう進めていくのかなと思うので、「最初に資料はないですか。」と口頭で確認をさせてもらいました。

 今後もしこういう形でやるのであれば、議事録をしっかりと取ってもらった後、確認するようフォローしていく形をとりたいです。

金子委員長 すみません、お待たせいたしました。

砂子委員 公募委員の砂子と申します。よろしく願いいたします。リーフラスさんに2点ほど質問させていただきます。

 1つ目は、「地域移行した場合、中体連の試合の出方」についてです。今は、各中学校で団体戦・個人戦に出ていますが、地域移行をすると、例えば小金井市の1チームだけが、中体連の要項に沿った個人戦4名までなど、1つだけになるのか。

 それとも地域移行というのは、あくまで各学校で指導者を募り、変わらず中学ごとの団体戦の参加になるのか。事例があったら教えてほしいです。

 2つ目は、4・5ページを見ますと、中体連の競技で20個ぐらい種目がありますが、地域移行になった場合は、例えば小金井市のラグビー部ですごく強いチームがあって、学校には部活動はないけれど、市にはあり、そこから中体連出たい。そして、小金井市で活躍できる選手に育てていきたい、みたいなことが発生するのか。それとも、今現在の各中学校にある部活だけのことなのか。これまでのご経験でわかりましたら教えてください。

受託者（西梶） はい、ありがとうございます。お答えさせていただきます。

まず、最初にご質問いただいた件に関しましては、今後皆様からいろんなご意見をいただいて作っていくものになると思います。これが小金井市の1つのチームだ、ということになりましたら、1つの枠組みという形になりますし、学校に1つずつ残っていくことになった場合は、各学校からになります。

中体連に関しましても、今が過渡期で、実際に地域移行しても試合に出られない。いわゆる顧問の先生がいないとベンチ入りができない種目もあります。すでに入れている種目もあります。

なので、これが今移行期なのかなと思います。

それともう1つ、後半に例えでありました、ラグビー部などの件については、地域によって昔から根強く残っている、いわゆるスポーツ団体が出るところと、部活動のみなど、今が本当に過渡期で、現在どちらの方向を向くか検討中。

かたや、技術を高めていることを求める団体競技と、学校に通っているお子さんが好きな運動・文化に触れられる部活動は、誰でも参加ができ、それを発表する場・争う場があるところが原点であると思います。

そのため、大会については日本が大きく変わらなければいけないというところで、現時点は中体連に入れる、入れない、というところが議論になっているということでございます。

過渡期のため、現状がこのような回答でございます。

金子委員長 大林さん、どうぞ。

大林委員 公募委員の大林です。まず前提として、部活動を移行できるかできないかではなく、国の政策から「移行する」という前提で今動いていて、マストだと思うのですね。それが前提としてあるのか、継続することもあるのか、という認識が1つ。

あと、少々厳しいこと言うのですけれど、先生方に情報を周知する必要がある、とのお話ですが、すでに小金井市としてもあり、国も情報発信をしています。なので、情報を待つではなくて、先生方も情報を仕入れるという主体的な意識は必要だと思います。

ちょっと厳しい意見としてですが、1人の保護者としてはそう思

います。

金子委員長 移行に関して、国や東京都はどこまで求めているのか、お伺いしてもよろしいでしょうか。

受託者（西梶） 国に関しては、令和7年度までが部活動の地域移行推進期間となっているところを確認しており、令和8年度以降は地域部活動に移行している前提であります。

現在全国的に進んでいる市町村もあれば、そうでないところもありますので、令和8年度以降までの推進期間を経て、そこに辿り着かなかった、難しかった課題に関して、今年度から来年度を含めて方針や指針を出す予定のように考えております。

金子委員 東京都からも同様な感じが出ているということですか。

三浦課長 東京都でございますけれども、令和6年度、7年度について、集中取り組み期間という位置付けになってございまして、8年度については現在、東京都の方は未定という形になってございます。

したがって、今年度、来年度で一定の方向性をというところが東京都のお考えでございます。

金子委員長 完全に移行するというよりかは、方向性を出しましよう、という流れになっているということですね。

大林委員 はっきりしているのは、例えば10年、20年後など、期間はわからないですが、必ず地域移行をするという前提でやっているのです。だから、できる、できないではなく、やることを前提に、できるためにどうするか議論が必要だと思います。

金子委員長 そうですね。後半、ビジョンを作っていく、そもそも部活動をどうしていくかは、議論をする必要があると思います。

今回に関しては、推進に向けて現実的にどんな課題があって、それをどう解決していけばいいかという課題出しをし、議論できればと思っています。今上がっていたように、たくさんの課題があると思いますので、その課題をどうクリアしていくことがポイントにな

るか。また、できれば7年度中に一定程度、解決の方向性を作っていけないと思います。

地域側からも、課題については意見が出てくるのではないかと思いますので、ぜひ、リーフラスさんも来ていただいている中で、率直に疑問や心配ごとを、どういう解決策を考えていくかにつながるのではないかなと思います。

川原委員

P T A連合会の代表で来ています、二中保護者の川原と申します。自身の息子が野球部に入っていて、やはり道具にお金がかかるじゃないですか。配布している書類の資料2では、中学校の運動部活として生徒数がすごく下がっていると思いますが、強くなりたい子は外のクラブチームに入るんですね。

外のクラブチームに入っている子たちは、内申点を稼ぐために、ガーデニング部や茶道部に在籍しているのが現状で、この表に関して、外のお金のかかるクラブチームみたいなのがどんどん伸びているのが現状だと思います。なので、そういったデータが把握されているのかを教えてください。

また、先ほど議題にあった、月4, 000円自己負担をする内容についてです。小金井市は、すごい階層ではないけどそこまで貧困じゃなく、真ん中あたりの世帯が、実際多いのではないかと感じています。その人たちが外のクラブチームには入れないけれども、部活だったら入れる家庭は、自分の周りも多いです。そうなった時に、小金井市に予算がないので、いろんな世帯が月4, 000円払っていけるのかが聞きたいです。

最後に保険についてです。現在P T Aだと保険代は会費の中から部費などを払っていると思うのですが、保険が実際いくらぐらいで加入し、どこが負担をするなど、子育て世代の親としては少々気になったところです。

受託者（西梶） ありがとうございます。最初の部分ですが、民間の地域スポーツクラブの伸び率は、出てこないです。申し訳ございません。

あくまで、学校では最低限、誰でも通える部活動を維持しています。その代わりに、自治体によっては、学校では楽しい、経験を積むなど、協調性を持たせる部活動にシフトしています。

もっと上手になりたい人は、お金は発生してしまうが、民間の地

域スポーツクラブに行ってください、と振っているところがあるように感じております。

それともう1つ、月謝の部分に関してですが、これも自治体によって異なります。

例として、大変申し訳ないですが、港区さんは地域移行を完了しています。内訳としては、10校の平日・土日含めて全て完了していますが、港区さんの考えは一切金額をもらわないという方針で移行されています。こちらは、弊社が運営させていただいている次第でございます。

最後に保険になります。保険に関しては、いわゆるPTAだとか学校のスポーツ振興センターの保険は民間では作れないそうです。あれだけ手厚い保険が作れないという話です。

今1番代表的なもので言うと、スポーツ安全保険というのがございます。こちらの方が、先ほど言いました死亡3,000万、後遺障害4,000万というところで、今スポーツ振興センターと合わせた保証になっておりますが、こちらは年間800円です。800円で安いのですが、この保険には1つ難点があります。

それは怪我をした時に1,500円しか出ません。入院して、入院だと4,000円だとか。

こちらの保険は大体制度化できてないので、1年間1,000円から2,000円とかっていう保険でやられているような状況でございます。

鈴木委員

公募委員の鈴木です。委員になって以来、他市の校長先生ですとか、いろんな方にお会いして、お話を聞いてきました。僕が当たり前だと思っていた放課後の部活指導って、実は先生の休憩時間に行っている事も初めて知りました。給食指導の為に、休憩時間が夕方だと言うことも初めて知りました。

今、色々ご説明をいただいた中で考えていたのですが、今後、先生の働き方改革で、土日顧問がいない部活動が当たり前になり、部活動指導員や地域の方の有償、無償のボランティアで指導者を賄う方法が考えられているのであれば、保護者や地域も広く巻き込んで、余程、力を入れて取り組まない限り、部活の内容によっては相当難しいと思います。

例えば、小金井市の場合は、野球やサッカーであれば、各小学校

に学童野球や学童サッカーがあるわけですが、それらはスポーツをしたいという親子の受け皿になっていると思います。指導者は地域の大人で、決してプロでもなんでもないので、練習も、子ども達のケアや移動も、保護者の協力を得て運営されています。

地域の大人である保護者や、指導者を巻き込んで上手く運営出来ていると思っています。全チームでは無いかもしれませんが、各小学校にある学童スポーツのチームでは、越境も受け入れている様です。中学の部活で出来ないという事は無いと思います。今後、地域在住の人を中心に、移行を進めていくのであれば、この方法は一つの参考になるのではないかと思います。部活動の引き受け手が地域に無いのであれば、埼玉の白岡のように、その様な受け皿になる組織を作って、そこへ外部委託していく形を取ることも考えていかなければならないと思っています。

先ほど説明にも出ていましたけど、合部とか合同活動っていうような形を中学校でも考え、学校の枠を超えてやっていこうとなると、行き帰りの安全確保という問題も出てくると思います。保険や、日没後の時間の長距離移動をどうするかという事も問題が出てくると思います。少し考えただけでも、かなり幅広い課題があるので、小金井市は、相応の覚悟を持って取り組まないとなかなか実現できないだろうなと思います。

これは情報提供並びに今後に向けての提案ですけど、ある自治体では、中学校の運動部が全て、シーズンオフの時期は個別の活動を取りやめて合同で基礎トレーニングに集中しているそうです。その時に、輪番で顧問の先生にお願いすることで、顧問が部活の度に全て出勤する必要がなくなるので、先生の負担も軽減できるし、活動自体も止めなくて済むような取り組みをしているところがあるようです。

あと1つ、すみません。これは今日、絶対言おうと思っていたことですが、地域移行の過渡期には様々な問題が起きると思います。私の娘は、バドミントン部に所属していますが、元々活動日が少なく、顧問の先生は活動中はいらっしやらないという話も聞きます。先生としては、負担も減るし、それが当たり前だって言われれば、仕方がない事ですが、熱心に練習したい子ども達は、自主練したくても場所がないという事で、わざわざ隣の府中市まで場所を探して出かけて行ってます。

諸々、良く調べて、十分に安全を確保して行くのならいいのですが、この炎天下、かなりの距離を時間的に相当タイトなスケジュールで移動して練習しています。結果として、東府中の先の体育館で、熱中症の症状が出た子が2人、その子たちは事務室で休養を取らせてもらい、もう1人は練習中に足を怪我してタクシーで帰ったそうです。どちらも大事に至らなかったのが良かったのですが、足を怪我した子は、もう少し酷かったら、手術しなければならなかったと医師より言われたそうです。この様に、移動も練習も誰も安全管理出来ていない現状にはしっかり目を配らなければいけないと思います。

万一の場合の保険についても、当事者として気になったので、スポーツ庁に連絡して聞いてみました。今おっしゃられていた通り、スポ振の保険は部活動外なので全く対象にならないそうです。中学までは医療は公費負担がありますが、将来に影響する様な後遺症はどのような扱いになるのか気掛かりです。

こういった現在の網から漏れている事が、大きな事故に繋がる気がしています、部活動の地域移行は、大事なことだと思うのですが、6年～7年度中に案をまとめて、8年度には実現するようスピーディーな展開をお話になっていますが、実態に合わせてよく目を配りながら、十分に足固めをしながら進めて行く事が地域移行では大事だと考えています。以上です。すみません長くてなって。

受託者（田原）　すでに話し合いに入っちゃっているので、次のグループの方に分かれて話し合いを進めるのはいかがでしょうか。

金子委員長　一旦、課題を出しときたいと思います。

梶野委員　中体連との関係や考え方についてはいかがでしょうか。

金子委員長　中体連の考え方ということなので、競技によってかなり違うという状況なのですかね、今の状態は。

受託者（西梶）　そうですね、同じ中体連であっても、先生たちが運営されてらっしゃいますので、例えば地区に応じて、地域の方々がベンチ入りできない種目もありますし、今移行期間中です。可能などころもある

ような感じですか。

金子委員長 競技自体無くなってしまっている中体連もある現状ですかね。

受託者（西梶） そうですね。そういったところも、聞いてはおります。

金子委員長 時間もありますので、さらに疑問等ありましたら、ぜひメールでも事務局の方にお伝えいただければと思います。

今、本当にスポーツ関係の部活動の話が中心に進んでいるところはあるんですが、当然、文化部というものは、同じように光があれば影があるということがかなり多いだろうし、元々、実は文化部の方はかなり手厚いものがなされてきたのかっていうことは、一旦考えないといけないことはあるかなという風に思います。

小学生がバンドやりたい、じゃあどこでバンドできるか、ということもあるし、プログラミングをやりたい方は、どこでプログラミングができるかなど、同じように出てくるのかなという風に思っておりますので、おっしゃった通りですね。

8年度に向けてモデルを1つ作りたいというのが、小金井市の考え方かと思えます。8年度以降にかけてそのモデルを合わせて協議し、部活動の移行ってものを進めていけないかというようなことを、今後考えて進めようとしていると思います。

なので、どんどん課題をいただいてですね、その課題に対してももちろん行政ができること、地域ができること、学校側ができることってというのが色々あると思います。

そこを明確にしながら、7年度中にモデルを1つ作れないかというように思います。

はい、時間もあるため、次の議題2に行かせていただきたいと思えます。議題1に関して、今までの課題みたいなものは、どんどん今後もメール等でいただければと思います。それに向けて、こちらの方で整理をして、次回の議論を深められればと感じています。

議題2に関しては、ワークショップを行っていきたく思いますので、事務局の方からご説明をいただいてもよろしいでしょうか。

三浦課長 それでは、議題2でございますけども、机の方は後ほど動かしていただきたいと思っておりますが、今後、小金井市の子どもたち

にとってより良い部活動、もしくはそれ以外の方法等を検討するためにどのような部分が重要な論点になるのか。

今いろんなご意見が出ましたけれども、色々な角度からご議論いただければなと思ってございます。

本日はですね、未来の子どもたちのためにどのような制度がよろしいのかというところで大きな視点でご議論をいただいて、後ほどグループごとに発表いただきたいと考えてございます。

やり方につきましては、K J法という形でやらせていただきますけれども、付箋紙を用意いたしますので、そこに意見を貼っていただいて、後ほどグループごとに発表をいただければと思ってございます。

では、5分ほど休憩いただき、38分から始めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(5分 休憩・机移動)

金子委員長 皆さん、ありがとうございます。20時15分ぐらいには終わらせたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

前半部分は、現実的な話を聞いていただきましたが、後半では、そもそもどんな部活動だったらいいのだろうか。など、ご自身の体験も含めて皆さんで議論をしていただけたらなと思います。

ビジョンとしてできないと、何のために地域移行を進めていこうが見失われていくので、小金井市としては、どんな部活動を子どもたちとやっていきたいのかを、ぜひお話しいただければなと思います。

受託者（田原） 現在は、日本全国均一ではないので、人口減少が進んでおり、小金井市よりも厳しい状態になっている自治体は、何か新しいことを始めざるを得ない状況の地域もあると思うんですね。

そういうのは、リーフラスさんが、いろんな地域の中で事例としてご存じだと思うので、そこはどうかだろう。という話も出てくると思います。

特に未来について、決まっているのではなく私たちはどうしたいのか、という話で多くのことが見えてくるのだと思うんですね。なので、今日は20分しかありませんが、ポイントとしては、色々

崩壊して出てきている課題もあれば、新しいやつ、課題も不十分であるけれど、この20分はそこまでの道筋は色々あるけれども、「小金井市の部活動ってどうなっていくといいのだろうか」ということをブレインストーミングしていけたらなと思っております。

はい、ではここからは話し合いの時間が15分あるんですけども、皆さん多分たくさん出てきていると思うので、皆さんの意見が15分以内でちゃんと話せるような時間も考えつつ、全員が話せるようなことを考えて、15分間でシェアしてください。リーフラスの方がいるので、シェアしているのを聞きながら、オンラインの付箋に落としていただけたらと思います。

では、ここから15分間で、今書いたものをグループで協力しながらシェアしてください。

(15分 グループワーク)

受託者（田原） はい、時間切れです。この後シェアの時間にしたいのですが、「新鮮だな」「今日話してみたら、今まで考えてなかった観点がでてきたな」など、部活に限らず、時代的にはこうなっていく流れだ、みたいな気づきがあったことを中心にシェアしていただきたいです。

では、このグループからどなたかお話いただけますでしょうか。

天本委員 新しいというか、最終目的がどこにあるのかっていう話になった時に、意外と割れるのだなと思ったのが、競技性を突き詰めてチームビルディングをして、人間教育的に鍛えて人を作っていく、いわゆる真剣競技に打ち込む環境が欲しいという意見と、競技を問わず、いろんなところで体験する機会が増えればいいなという意見というのがあり、個人的には新しい考えかかなと思いました。本当に部活動のあり方に関わる意見だと感じました。

受託者（田原） ありがとうございます。組織に就職していくみたいな話と、パレルワークでフリーランスとして働くというような、今2つの働き方も出てきていて、組織の一員として効果的に働くみたいなことは、運動部で鍛えた能力が生きるみたいなこともありますし、10個ぐらいのプロジェクトを回しながら行っている人たちからすると、いろいろな部活を行い、いろいろな考え方を鍛える。

なので、どのようなキャリアパスに行くのかが、新たな話ですよ。
それでは、次のグループもお願いします。

瀬沼委員

緑中学校の瀬沼です。お願いします。

こちらのグループでは、部活動の中で出てきた意見で新しいなと思
ったのが先程の内容と重複しますが、今までは部活と言えば、1つ
のものに入って打ち込むというのが私たちの部活動の感覚でした。

今の段階では、兼部だとかいろいろなものを組み合わせてやって
いくというところは、発想としては面白いのではないかというよう
な意見が出ました。

いろんなものを行っていく中で、将来的なキャリア教育ではあり
ませんが、経験したものからこういう職業についてみようとか、そ
れに関わる仕事についてみようとか、そういう発見ができるような
ことをできたら面白いのではないかというような意見は新しい意
見としてはありました。

オリンピックの新しいスポーツで、ブレイキンやダンスとかで、
試合中にでも相手を称えることや競技中にお互いをリスペクトし
合いながら何か物事を行っていくような、その様な感覚なものとい
うのも新しい発想としてあり、そのようなものが部活の中でも取り
入れたり、子どもたちにも経験が根付いていくのも面白く、10年
後にでもできていたら面白いという意見もありました。以上です。

受託者（田原）

文明が生まれるというやり方があり、それがコピーアンドペース
トでさらに増加していきますが、人口減少の時には人が足りなくな
ってくるので、1人がいろいろなことをやると農家の方のことを
「百の仕事をする人」と言うように、そういう話だとマルチアカウ
ントのようなものがいろんな場面でキーワードになる時に、部活も
いろいろな兼業みたいなマルチアカウントみたいで楽しみですよ
ね。だからそれがすごく時代的な考え方だなと思いました。ありが
とうございます。それでは、最後のグループもお願いします。

下島委員

様々な意見が出ましたが、私が個人的に思ったのは、意見自体が
今時だなと思いました。子どもたちが自分のやりたいことを子ども
たちが自由に選べるというのは、地域移行していく中で今の部活よ

りも可能である意見だと感じました。

例えば、私が勝手に発言した意見ですが、学校の部活の中だけであれば学校にある部活にしか入れないので、ここにある選択肢ではないですが、例えば、数校合同で、もしくは小金井市全体で協力していけば、いろんな選択肢があります。

そうすれば子どもたちがやりたいものに入れること、もっと子どもたちの主体性が伸び、モチベーションも上がり、充実した活動になっていくのではないかと考えております。

地域移行していくと、より自由に子どもたちのやりたいようなものができるのではないかと考えました。

受託者（田原） 当事者主体のとても重要な今の議論ですね。

今まで組織主体や、組織が用意できたかがどれを選ぶかに関して、当事者主体だと組織がどんどん縮小していくと、指し示せる選択肢もどんどん狭くなりマッチングしなくなっていく。

だから取る人も、割合が減ってくるという時に、根本から構造を変えることでやりたいことをやれるという環境が実現できるのではないかというのは、これがいろんなところで個人発生しているという、というわけで、意外と20分でいろんな意見が収集できました。

金子委員長 皆さん、ありがとうございます。

本当に夢をもってですね、ぜひ本当に今子どもたちがやりたいことがやれる部活動というのもありましたし、本当に何かを突き詰めるということをやらないといけないんじゃないのかという意見もありました。そういうことをうまくまとめていながら、本当に小金井市の部活動のビジョンみたいなものを作れると、多分いろんな問題を解決しようとした時に問題ばかり注目すると、どんどん気分が暗くなっていきます。

こういうところに行きたいと思って考えていくと、いろいろな課題も出てきますし、いろいろなものが考えられるかなと思います。

今、子どもたちがという話になりましたが、部活動の地域移行で1つ僕が思っているのは、先生方の働き方がすごく大事で、先生方が疲弊しているというのは現実的にあると思いますが、同時に、実は子どもたちのカリキュラムオーバーロードと学ぶことが多すぎるといっている状況になっているという風に言われています。

これからカリキュラムオーバーロードどうするんだっていうのは、本当に国を挙げて議論をしなくてはいけないことになると思いますが、部活動がそのカリキュラムのさらにプラスとなり、子どもたちはさらに追い詰められていくというようなことが起こると思うので、今言ったように、本当にやりたいことをやるのであれば頑張れるよねということだと思います。

学校が終わってまた学校、みたいな状況になると子どもたちはさらに追い詰められていますので、ぜひ子どもたちがどういう風にやりたいことを実現していけるのかということを考えていければいいのかなという風に思いますので、一旦頭の片隅に入れて、カリキュラムオーバーロードというのは日本全国、世界の問題になっているのがありますので、そこも少し頭に色々事情を考えていないかなという風に思います。ありがとうございました。

金子委員長 この後、締めに入ってでもすみません、その他で、鈴木さんからの資料があったかと思しますので、皆さん、資料の確認をお願いします。

鈴木委員 次第1の参考資料の1番後ろの「要保護・準要保護」と書かれた一覧表です。これは事務報告から取ってきたものなので、オープンになっている物です。令和2年、令和3年、令和4年の分です。令和5年の事務報告はまだ出ておりません。

小学校、中学校別に、要保護・準要保護と言う経済的に少し苦しいご家庭に一定の支援をする制度です。給食費の減免ですとか、卒業時にかかる費用の補助や、入学準備であれば5、6万のお金を給付するというような制度です。

なぜこの資料をお示ししたかという、令和4年の中学校の準要保護と要保護の数字を見て頂きたいのです。2年、3年、4年と進んできて、要保護については1桁台まで落ちてきていますが、準要保護については少しずつ増えています。コロナで一時的にその家計が苦しくなったということではなく、コロナが落ち着いてきても準要保護のまま、明日食べられないほどではないですが、行政の支援を必要としている子どもがいるということが読み取れると思います。

先程川原さんも仰っていましたが、道具の必要なスポーツはやは

りお金がかかります。野球は成長と共にスパイク、バット、グローブを買うようになっていくので、費用の点で諦めている子がいるということが、先ほどリーフラスさんがおっしゃっていた、野球の人口が減っていつているという事にも関係するのではないのかと思います。今後何か指針を作っていく時に、どうとでも取れるような書き方ではなく、小金井市は明確に必要とする子に支援をするという様に、明確に書いた方が良いと思います。以上です。

金子委員長 ありがとうございます。今のことに関しての質問やご意見は大丈夫でしょうか。

 それでは、議題3、今後の予定について事務局からご説明をお願いいたします。

三浦課長 それでは、資料3の令和6年度小金井市立学校部活動地域連携に関する検討委員会スケジュール案をご覧ください。

 令和6年度につきましては、第2回が本日となっております。この後、9月、12月、翌年の2月頃開催予定してございます。

 日程や詳細等につきましては、正副委員長とご協議させていただきまして、なるべく早く皆さんの方にお伝えしたいと思っておりますので、本日の時点ではそのようにご認識いただければと思います。

 私からは以上でございます。ありがとうございます。

金子委員長 ありがとうございます。時間が15分になってしまいましたが1つだけ。ビジョンで作ろうと言っているのですが、皆さん知っているニトリという会社にはビジョンがあってですね、世界中の人々に豊かな家具というのがニトリのビジョンです。

 決してニトリは家具を安く売るということをやっているわけではなくて、皆さんの生活を豊かにすることをビジョンに掲げてビジネスをしています。

 そういう形で、小金井市もこういうところに行くんだ、というビジョンがあるといろんな手段が出てくると思います。

 だからニトリさんは、それを実現するために家具をとにかく安く販売するということになりますので、ぜひこういう部活動をすると思ひして良くなるだろうというようなビジョンを作ればなと思います。

また今言ったように9月・12月と残り2回しかないので、そこで考えながら、前半部分の課題みたいなところは、ぜひどこか1つでも事例を作りながらモデルを展開していかないと、新たな課題だとか成果が見えてこないということはあると思います。

そのため、どこかモデルを作りながら、実際にこうしていき、いろいろな課題だとかこういう成果があつてとか、ここはダメだなど、議論していければと思いますので、次回までにそういうことも含めて整理をしておきたいと思います。

鈴木委員

1つだけお願いしてもいいですか。

当日の資料ですが、この場で渡されても少し分量が多すぎるので、もしよければ2週間ぐらい前にアドバンスで少し早めに資料いただけると助かります。メール添付のような形でも構いません。

三浦課長

検討させていただきます。

金子委員長

ありがとうございます。

その他皆さんからご意見、ご質問ありましたら伺いますが、よろしいでしょうか。

それでは、議事進行がうまくできず、15分ぐらい過ぎてしまいましたが、次回9月、またよろしく願いいたします。それでは、今日は終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。

— 了 —